

目的 シームパッカリング (Sp) の防止のために、紙を当てて縫製するが、紙の種類 (特に厚さ) によって Sp がどのように変わるか調べた。

方法 ブロード40番と60番を供試布とし、カタン糸80番と絹ミシン糸50番を縫糸とした。2枚の布を重ね、針目数16~19/3cmとし、紙を当てない場合と、タイプ用紙の厚さ0.045mmから0.097mmまでの4種のそれぞれの紙を布の下に当てて、たて方向にミシン縫いとした。順位法による Sp の官能量と縫い縮み率とした物理量の Sp とを測定し、紙の厚さによって Sp に差が認められるかどうかを、ウォーリス検定で行い、また、官能量と物理量の相関性を調べた。

結果

1. ブロード40番、60番の厚さ程度の布でも、紙を当てたことによって常に縫い縮み率は負の傾向である。
2. 検定の結果、紙の種類により、官能量、物理量共に、 Sp に差がみられる。
3. 絹糸での縫製時は、物理量と官能量との Sp に正の相関性が認められた。
4. 縫い縮み率負、すなわち伸びきみの方が、官能検査による Sp が小さくきれいに見える傾向である。